

いったん服を濡らしてしまうと着替えることも乾かすことも難しい。

また、濡れた靴をずっとはき続けているのは靴擦れなどのフットトラブルの原因ともなるので『濡れない靴』か『濡れてもすぐに乾く靴』を用意する必要がある。もちろん、大切な戦利品を納めるバッグも防水で雨水が侵入しないようなものでなくてはならない。雨が降っている場合にはそこまでの用意が必要となってくるのだ。そしてそれを避ける最も簡単な方法は『屋外での長時間待機をしない』というコトに限る。

幸いりんかい線、ゆりかもめ、バスのどの方法で来場しても、会場まではほとんど屋根のある場所を通過して移動することができる。わざわざ待機列に並ばなければ重装備も必要ないのだ。不慣れな参加者や体力に自信のない参加者は待機列が無くなる正午過ぎに会場に到着するようにしよう。

■突発的にも雨は降る■

数年前にも、会期中に一時的な大雨が降ったことがあるが、夕立ちなどの夏の雨は降り出しから一気に雨脚が強まり、一瞬にしてずぶ濡れになってしまうのが特徴だ。

この手の雨には降り出してからではほぼ対処のしようがないので、もしかしたら会期中にそんな雨に見舞われる可能性があるかもしれない、という認識を最初から念頭において事前対処をしておくよりない。

ポイントとしては以下の通り。

- ① 何より大切な戦利品を万一にも濡らさないよう、完全防水のバッグを用意していくか、買った端からビニール袋やプラケース等に入れた上でバッグの中に収納していく。
- ② 下着、肌着、靴下の着替えとタオル類（数枚）は必ず用意していく。
- ③ 着ていく服は万一濡れてしまってもその後に乾きやすい、化繊や混麻などをチョイスする。また、女性参加者は万一雨に濡れた場合でも下着などが透けてしまわないように慎重を期す。雨が降ると気温がぐんと下がる場合もあるので、薄手でも何か上着を用意しておく。
- ④ 手提げ紙袋は雨に対しては無防備なので、いざという時には紙袋ごとビニールに入れる。あるいは大きなビニール袋に頭を出す穴をあけて自分自身がかぶる。
- ⑤ 夕立などの局地豪雨の場合は一瞬にして地面が池のようになってしまう程の雨量が降るケースがあり、そうなると普通の靴の防水性能は役に立たない。最初からミドルカットのトレッキングシューズなど本格的な防水能力を持った靴を履いていくか、最近出回っている水を素通しするシューズやスポーツサンダルなどを履いておけば常にドライコンディションを保って快適。



■雨も暑さも対策次第■

さて、このコーナーの記事を読まれて、『あれ、着る物とか暑さ対策と雨対策で結構かぶってないか?』と思われなかっただろうか?

その認識は正しい。汗でも雨でも、服や身体を濡れたままにしておかない、ということが基本となる以上その対応策も自ずと似てくる。逆にいえば、正しく暑さ対策をしておけば、プラスアルファの準備で雨対策もカバーできるのだから、最終的に雨が降っても降らなくても損にならない両面待ちというわけだ。

暑くて不快で、雨が降ったらずぶ濡れという残念なことにならないために、対策は十分研究しておこう。

■■未成年参加者諸君へ!!■■

ここ何年か、高校生、中学生といった未成年の参加者が急増している。同人文化の裾野が広がっていくことそのものは良いことだが、本来コミケットは低年齢向けのイベントではない。未成年者の参加については成年参加者とはまた異なったルールがあるのだ。

●ここが違うよ未成年参加者。

コミケットの参加者は等しくコミケットの無事な開催に対して責任を負う、というのは前のコーナーで挙げた基本ルールだが、未成年の参加者はその責任の負い方も大人とは少し違ってくる。

その一例が都の青少年育成条例だ。コミケットは東京都で開催されるイベントなので、コミケットのルールの前にそういった東京都の定めるルールが存在し、参加者もその適用を受ける。その中でコミケット参加者に直接関係がある項目は次の通りだ。